

【熊本国税局長賞】

見えない手のぬくもり

天草市立本渡中学校

三年 田中 美心

一億二三八〇万人のみなさん、私に小さな幸せをありがとう。毎日楽しく生活をさせてくれてありがとう。きれいに整備されていて安全で快適な街をありがとう。

天草市では、〇歳から一八歳までのこどもを対象に、保険診療の負担金を一部助成する制度があります。これは、普段から払われている「税金」のおかげです。これを知ったとき私は、「今こうして生きているのは、税金を納めてくれている方々のおかげだな」と感じました。税を納めるのは確かに大変かもしれませんが、でもそれが、命を救う力になることもあるのです。

小学校の生活科の授業で「出生」について調べる機会があり、そのとき両親からこう聞きました。

「美心は、低出生体重児で生まれてきたんだよ。」

低出生体重児とは、出生時の体重が二千五百グラムに満たない赤ちゃんのことです。体重が軽いことで、様々な健康リスクをかかえることもあります。私は、うまれてすぐに新生児集中治療室に入院していました。この医療費助成制度を知り、小さな体で生まれてきた私は、たくさんの人の力に支えられて命をつないできたのだと気づきました。

命は、偶然ではなく、無数の選択と支えの上で成り立っています。私が生きているという事実は、家族の祈り、医師の判断、制度の存在、そして見知らぬ誰かの「納税」という行為が重なった結果です。税金とは、ただのお金ではありません。それは誰かが「自分以外の誰かの未来」を信じて差し出した「希望のかげら」です。私はその希望の中で育ちました。小さな命が生き延びるために、社会は静かに動いていたのです。そのことに気づき私は「生きる」とは「受け継ぐこと」なのだと思います。つないでもらった命を、今度は私が支える番です。見えない手に感謝しながら、私もまた、誰かの見えない手になりたい。命の重みを知る者として、社会の優しさを絶やさない存在でありたいと思います。

今はまだ、ほぼ消費税という少額の税しか納めていません。大人になると所得税や住民税、健康保険税などたくさんの種類の税を払うことになります。今感じているこの感謝と気づきを忘れず、優しさが静かに循環する社会の一員として、「納税の義務」を果たし、貢献していきたいと思います。